



練馬区自然環境調査報告書 概要版



平成24年3月
練馬区



はじめに

練馬区は東京 23 区内の中でも豊かな自然を有する区のひとつです。かつては、区内の各地に、雑木林や農地、屋敷林などの武蔵野の面影を残した風景が見られましたが、都市化の波が押し寄せるとともに、そのような風景は少なくなっています。

時代の経過とともに区内に生育・生息する動植物や、それらがつながりあう生態系全体も刻々と変化していると予想され、現状を把握する必要があると考えました。

そこで平成 18、19 年度に区民委員を含めた検討会を行い、平成 20 年度から「練馬区自然環境調査」として、区内に生育・生息する植物や昆虫類・クモ類、鳥類、ほ乳類、は虫類、両生類、陸産貝類の調査を行いました。また、平成 22 年 3 月から 1

年間かけて、「練馬区自然環境調査」の一環として、区民参加による生物調査「ねりまの生きものさがし」を実施し、区民の方が生きものに興味・関心を向ける活動を行いました。

この概要版は、「練馬区自然環境調査」の内容を、多くの区民の方に、わかりやすく紹介するために作成したものです。この資料が、練馬区の財産である動植物の存在を、区民の方に伝えるきっかけとなり、今後の豊かな区政や区民生活に活かされることを願っています。

最後になりましたが、この調査を行うにあたり、ご協力いただきました関係者の皆様に、深く御礼申し上げます。

平成 24 年 3 月
練馬区 環境まちづくり事業本部
環境部 みどり推進課

目次

はじめに・目次	1
生物実態調査	2
植物	5
昆虫類	7
クモ類	9
鳥類	10
ほ乳類 / は虫類	12
両生類 / 陸産貝類	13
練馬区の様々な環境	14
ねりまの生きものさがし	18
春の結果	20
夏の結果	21
秋の結果	22
冬の結果	23
練馬区の自然観察ポイント	24
自然観察の方法	26



※「ねりまの生きものさがし」のロゴとイラストについて
P.18～23 のタイトルロゴと、モズ・タマムシ・タヌキのイラストは、区民を含めた検討委員会で練馬らしい生きものとして選ばれました。

生物実態調査

調査の目的と時期

本調査は、練馬区の環境施策の策定および環境整備事業などに活用するために実施した調査です。右に示したことを目的としています。

目的
1

練馬区における各地域の生態系の実態を明らかにし、練馬区における自然度を表す「環境指標」としていく。

目的
2

調査結果の普及および調査への区民参加により、生態系や自然への区民の関心を高め、自然環境の保全等に係わる意識啓発を図る。

調査項目とそれぞれの調査時期

調査項目	平成 20 年度						平成 21 年度							平成 22 年度									
	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	
植物		秋期					春期			夏期													
昆虫類	大規模緑地						春～秋期																
	小規模緑地						春期		夏期		秋期												
クモ類	大規模緑地									夏期		秋期							春期			夏期	
	小規模緑地									夏期		秋期											
鳥類				冬期			春期					秋期											
ほ乳類・は虫類・ 両生類・陸産貝類				冬期			春期		夏期		秋期												

生物実態調査で調査した生きもの



植物



昆虫類



クモ類



鳥類



ほ乳類



は虫類



両生類



陸産貝類

調査地

区内を4つのエリアに区分し、7つの環境類型ごとに調査地を選定しました。

調査地一覧

環境類型	I 北町・田柄エリア	II 豊玉・中村エリア	III 石神井・関町エリア	IV 大泉・土支田エリア
① 樹林地 (落葉樹優勢林)	●都立光が丘公園 ◎都立城北中央公園 ○どんぐり山憩いの森	●武蔵学園 ◎豊島園 ○廣徳寺・区立高稲荷公園	●都立石神井公園 ◎区立武蔵関公園 ○東京カトリック神学院	●都立大泉中央公園 ◎稲荷山・清水山憩いの森 ○八の釜憩いの森
② 樹林地 (針葉樹優勢林)	八幡神社	氷川神社	天祖若宮八幡宮	土支田八幡宮
③ 樹林地 (屋敷林)	U 氏邸	N 氏邸	MO 氏邸	MU 氏邸
④ 草地 (雑草地)	都立光が丘公園 (昆虫原っぱ) 都立城北中央公園			小作原広場 井頭こぶし憩いの森 区立びくに公園
⑤ 農地 (畑地・体験農園)	高松市民農園		石泉愛らんど	O 氏畑
⑥ 水辺 (止水域)	都立光が丘公園 BS [※]		石神井池 三宝寺池 富士見池	
⑦ ルート (市街地・住宅地・河川)	田柄川緑道ルート	城南住宅ルート 練馬駅周辺ルート	立野町ルート 石神井川流域	土支田・谷原ルート 白子川流域

●：コア緑地 ◎：サブコア緑地 ○：小規模緑地
※BS：バードサンクチュアリ

調査地の例

① 樹林地 (落葉樹優勢林)



清水山憩いの森

③ 樹林地 (屋敷林)



MU 氏邸

④ 草地



都立光が丘公園 昆虫原っぱ

② 樹林地 (針葉樹優勢林)



天祖若宮八幡宮



⑦ ルート



練馬駅周辺ルート

⑥ 水辺 (止水域)



都立石神井公園 三宝寺池

⑤ 農地



高松市民農園

調査結果

生物実態調査では、2,151種の生物を確認しました。そのうちの148種が重要種で、7種が特定外来生物、41種が要注意外来生物でした。



オオタカ
(重要種)



オオカワヂシャ
(特定外来生物)

生物の確認種数

分類群	確認種	重要種	特定外来生物	要注意外来生物
植物	1,093	48	6	36
昆虫類	727	40	0	1
クモ類	182	3	0	0
鳥類	99	40	0	0
ほ乳類	5	1	0	0
は虫類	13	8	0	4
両生類	7	6	1	0
陸産貝類	25	2	0	0
合計	2,151	148	7	41

重要種とは

本調査では、「文化財保護法」、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(以下、種の保存法)、環境省レッドリスト(国RL)、東京都レッドリスト(都RL)のいずれかの選定基準で指定されている種を「重要種」としました。都RLは区部の評価を基準としました。

外来種とは

本調査では、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(以下、外来生物法)で特定外来生物・要注意外来生物と指定された種を外来種に含めました。さらに、「外来種ハンドブック」(日本生態学会編 2002)や図鑑をもとに外来種か否かを判断しました。この概要版では、国外を起源とする国外外来種について集計しました。

国および都RLのカテゴリーの基本概念

カテゴリー名称	表示	基本概念
絶滅	EX	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めすでに絶滅したと考えられるもの
野生絶滅	EW	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧ⅠA類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類	EN	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類	VU	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	DD	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
留意種	*	現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため、上記カテゴリーには該当しないものの、次の①～⑧の選定理由のいずれかに該当し、留意が必要と考えられるもの <選定理由> ①準絶滅危惧(NT)に準ずる ②過去に環境変化により、生息地が限定されていたり、孤立個体群がある ③人為的な環境配慮により個体群が維持されている ④外来種の影響に注意する必要がある ⑤生活史の一部または全部で特殊な環境条件を必要としている ⑥自然の回復状況をあらわしている ⑦良好な環境の指標となる ⑧タイプロカリティ(基準産地、模式産地)
ランク外 [※]	○	当該地域で生育・生息が確認されているが、上記カテゴリーに該当しないもの
データ無し [※]	—	当該地域において生育・生息している(していた)可能性があるが、確実な記録や情報が得られなかったもの
非分布 [※]	・	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの。但し、鳥類では、確認記録があっても当該地域が主たる生息域でない判断される場合は、非分布として扱った。

※ 都RLのみ



植物

確認種 1,093 種 外来種 313 種 (特定外来生物 6 種)
 重要種 48 種 (要注意外来生物 36 種)

確認種数

植物確認状況一覧

分類群		科数	種数 [※]	重要種	特定外来生物	要注意外来生物	
シダ植物		18	58	11		1	
種子植物	裸子植物	8	32				
	被子植物	双子葉植物	113	757	18	6	24
		単子葉植物	19	246	19		11
合計		158	1,093	48	6	36	

※種数には亜種、変種を含む

重要種

48 種を確認しました。重要種を確認した場所は都立石神井公園が最も多く 27 種でした。大規模な樹林や三宝寺池、白子川などの水域で重要種を多く確認しました。



ホソバナライシダ
(都 EN)



ハンノキ
(都 VU)



イカリソウ
(都 EN)



ミズキンバイ
(国 VU など)



カタクリ
(都 VU)



キンラン
(国 VU など)

外来種

外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）により特定外来生物と指定されている種を 6 種確認しました。特に石神井川のオオカワヂシャ、白子川のミズヒマワリは流域に広く分布していました。

要注意外来生物は、トウネズミモチ、ハルジオン、セイタカアワダチソウなど 36 種を確認しました。



オオカワヂシャ



ミズヒマワリ

練馬区の植物の特徴

植栽種が多い

外国産の植物、造園用の日本在来の植物など植栽した植物を多く確認しました。全確認種数 1,093 種のうち 387 種が植栽で、全体の 35%が植栽種でした。



イチョウ (中国原産)



サツキ (在来の植栽種)

市街地に見られる植物などが多い

植栽種以外では、市街地に生育する在来種や帰化植物、鳥類が果実を食べて糞を落とすことによって種子散布される木本類などが多く確認されました。



ドクダミ (在来種)



カタバミ (在来種)



トウネズミモチ (鳥類による種子散布)



ハルジオン (帰化植物)

樹林地で帰化率が低い

調査地全体の帰化率の平均は、23.2%でした。樹林地で低く、草地、農地、ルート調査地で高い傾向にありました。これは帰化植物が人為的な攪乱の多い場所に多く生息することを反映しています。

環境類型ごとの帰化率の平均値

環境類型	帰化率 (%)
樹林地	12.2
水辺 (止水域)	16.1
草地	28.1
農地	33.3
ルート (河川を含む)	31.1
全体の平均	23.2

規模の大きい樹林や水辺で重要種が多い

規模の大きい樹林や三宝寺池 (都立石神井公園内)、白子川などの水域で重要種を多く確認しました。

重要種の多い調査地

調査地名	確認種数
都立石神井公園	27
稲荷山・清水山憩いの森	8
都立光が丘公園	6
豊島園	5
白子川流域	5

雑木林に見られる植物などが少ない

重要種以外では、樹林に生えるシダ植物、落葉広葉樹の二次林 (雑木林) の植物、草地の植物、湿生植物、土の露出した路傍の植物、かつて水田の畦に生育していた植物などが少ないことが分かりました。



クマワラビ (樹林に生えるシダ)



ヤマユリ (雑木林の植物)



ナンバンギセル (草地の植物)



オニスゲ (湿生植物)



ユウガギク (土のある路傍)



コオニタビラコ (水田の畦など)



昆虫類

確認種 727 種
重要種 40 種

外来種 14 種 (特定外来生物 なし)
要注意外来生物 1 種

確認種数

13 目 164 科 727 種を確認しました。このうちコウチュウ目が最も多く 36 科 215 種、次いでチョウ目の 28 科 149 種、カメムシ目の 36 科 118 種、ハチ目の 15 科 87 種でした。

調査地別では、都立光が丘公園が 394 種と最も多く、次いで都立石神井公園の 355 種、稲荷山・清水山憩いの森の 264 種となっており、区内の大規模な樹林地に多くの昆虫類が生息していることが分かりました。

昆虫類確認状況一覧

目名	科数	種数	重要種	外来種
トンボ	9	34	10	
ゴキブリ	2	2		1
カマキリ	1	3		
シロアリ	1	1		
バッタ	12	45	7	1
ナナフシ	1	1		
ハサミムシ	2	4		
カメムシ	36	118	4	4
アミメカゲロウ	4	6		
コウチュウ	36	215	13	4
ハチ	15	87		1
ハエ	17	62		2
チョウ	28	149	6	1
合計	164	727	40	14

重要種

40 種を確認しました。環境省のレッドリスト記載種では、エサキアメンボを都立石神井公園で確認しました。東京都のレッドリスト記載種では 40 種を確認しました。確認種数が多いコウチュウ目で 13 種を確認したほか、トンボ目で 10 種、バッタ目で 7 種を確認しました。



エサキアメンボ
(国 NT など)



ウバタマムシ
(都 CR)



キイトンボ
(都 EN)



ヒメトラハナムグリ
(都 EN)



ハグロトンボ
(都 VU)



ミヤマアカネ
(都 VU)

外来種

14 種を確認し、このうち要注意外来生物としてアカボシゴマダラを 13 ケ所の調査地で確認しました。今後は更に分布を拡げる可能性があり、注目される種です。また、最も多くの調査地で確認したのはアオマツムシで、20 ケ所で確認しました。樹林性の種ですが、屋敷林や住宅地などにも広く生息していました。



アカボシゴマダラ



アオマツムシ

練馬区の昆虫類の特徴

市街地に生息する種が多い

区内全域で生息していたのは、ヤマトシジミやクロアゲハ、オンブバッタ、カネタタキ、ウスバキトンボなど、住宅地や市街地でも生息できる種でした。これらの種は練馬駅の周辺でも確認できました。



ヤマトシジミ



オンブバッタ

暖地性の種が生息

本来は暖地性の種であるナガサキアゲハやクロコノマチョウ、ツマグロヒョウモン、ムラサキシジミ、クマゼミなどを確認しました。特にツマグロヒョウモンは26ヶ所の調査地で確認し、区内に広く分布していました。



ツマグロヒョウモン



クマゼミ

樹林性の種も生息

都立光が丘公園や都立石神井公園などの大規模緑地には、イチモンジチョウやウバタマムシなどが、屋敷林のような規模の小さな樹林でも、ヤマトタマムシやノコギリカミキリ、サトキマダラヒカゲなどが生息していました。樹林性の種は、区内に広く分布していると考えられます。



イチモンジチョウ



ヤマトタマムシ

水辺の種も生息

区内の池では、コムラサキやキンヒバリ、ヤチスズ、キイトンボのような湿地を好む種が生息していました。また、白子川や石神井川ではハグロトンボのような流水性の種が、清水山憩いの森の湧水ではオニヤンマも確認でき、多様な水辺環境が残されていると考えられます。



コムラサキ



ヤチスズ

コラム 渡りをするチョウ「アサギマダラ」

チョウの仲間には渡りをするものがあります。アサギマダラという種で、日本の本土と南西諸島や台湾などを行き来します。今回の調査では、このチョウが、秋に白子川の源流付近に多数集まっていることが確認できました。渡りの途中で花の蜜を吸い、更に南下する旅の準備をしていたのでしょう。





クモ類

確認種 182 種 重要種 3 種 外来種 なし

確認種数

30 科 182 種を確認しました。このうちハエトリグモ科が最も多く 29 種、次いでヒメグモ科・コガネグモ科の 23 種、サラグモ科の 19 種でした。

調査地別では、都立石神井公園で 105 種、都立光が丘公園で 97 種と、この 2 ケ所で特に多くの種を確認することができました。

重要種

環境省のレッドリストに記載されている種では、キシノウエトタテグモを 7 ケ所で確認しました。東京都のレッドリスト記載種は 3 種で、このうちトゲグモと

ゴマジロオニグモは区部では「データなし」とされている種でした。



キシノウエトタテグモの巣



キシノウエトタテグモ
(国 NT など)



トゲグモ
(都一)



ゴマジロオニグモ
(都一)

練馬区のクモ類の特徴

都内では珍しい種が見つかりました

東京都内や 23 区内では初記録と考えられる種が見つかりました。クモ類は、専門家も少なく、十分に調査が行われていない分野で、本調査の結果は貴重なデータになると考えられます。

東京都および 23 区内の初記録一覧

記録地	種名	
東京都 初記録	ヒカリアシナガグモ ヨシシャコグモ	
23 区内 初記録	キハネグモ ナニワナンキグモ ナカムラオニグモ シッチコモリグモ ツルサキコモリグモ ヤマトフトバワシグモ チクニハエトリ	ヤマトコツブグモ トゲグモ ゴマジロオニグモ カラコモリグモ キレオビウラシマグモ カタオカハエトリ ヤガタアリグモ



ヒカリアシナガグモ



ヨシシャコグモ



カタオカハエトリ



カラコモリグモ

暖地性の種が見つかりました

ヒカリアシナガグモやマルゴミグモ、クロマルイソウウグモ、ヤガタアリグモなどの暖地性のクモ類が見つかりました。これらの種は、最近分布を広げていると考えられています。



マルゴミグモ



ヤガタアリグモ



鳥類

確認種 99 種 重要種 40 種 外来種 4 種

確認種数

14 目 35 科 99 種を確認しました。このうちスズメ目が最も多く 18 科 49 種、次いでカモ目の 1 科 14 種、タカ目の 2 科 8 種、チドリ目の 4 科 7 種でした。

水鳥であるカイツブリ目・ペリカン目・コウノトリ目・カモ目・ツル目・チドリ目を合わせると 31 種・全体の 3 割以上となりました。

生態系の上位に位置するタカ目・フクロウ目の種は 9 種にのぼり、区内の鳥類相の豊かさを示していると考えられます。

鳥類確認状況一覧

目名	科数	種数	重要種	外来種
カイツブリ	1	1	1	
ペリカン	1	1		
コウノトリ	1	5	3	
カモ	1	14	3	1
タカ	2	8	8	
ツル	1	3	3	
チドリ	4	7	7	
ハト	1	3		1
カッコウ	1	1		
フクロウ	1	1	1	
ブッポウソウ	1	1	1	
キツツキ	1	3	1	
スズメ	18	49	12	
インコ	1	2		2
合計	35	99	40	4

重要種

40 種を確認しました。国の定める「種の保存法」指定種は、オオタカ、ハヤブサ、コアジサシの 3 種、環境省のレッドリスト記載種としては、サシバや

ハイタカなど 6 種を確認しました。東京都のレッドリスト記載種は、クサシギやアオゲラなど 40 種でした。



オオタカ
(種の保存法など)



ハイタカ
(国 NT など)



クサシギ
(都 EN)



アオゲラ
(都 EN)

外来種

4 種を確認しましたが、特定外来生物・要注意外来生物に該当する種はありませんでした。そのうち、区内に定着していたのは、ドバトとワカケホンセイインコです。ドバトは区内に広く分布していました。ワカケホンセイインコは、大きな樹木の生えているところであれば、面積の小さな樹林でも生息していました。



ドバト



ワカケホンセイインコ

繁殖を確認した種

調査中に巣や雛の姿を確認し、繁殖していると考えられたのは17種でした。



カルガモ (白子川流域)



バン (都立石神井公園)



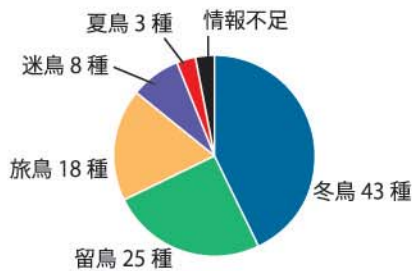
コゲラ (区立武蔵関公園)



カワセミ (都立石神井公園)

渡り区分

確認された99種を、移動の特徴(渡り区分)から分類すると、秋から翌春に飛来する「冬鳥」が最も多く43種、ついで一年中生息している「留鳥」が25種、春と秋にだけ立ち寄る「旅鳥」が18種などとなり、春から秋まで飛来する「夏鳥」は3種のみでした。この他、迷ってきたと考えられる「迷鳥」が8種、区分が不明な種(情報不足)が2種いました。



オナガガモ (冬鳥)



シジュウカラ (留鳥)



サンコウチョウ (旅鳥)



ツバメ (夏鳥)

練馬区の鳥類の特徴

樹林性の種が多い

区内の大規模な樹林のある公園や屋敷林などには、オオタカやツミ、アオゲラ、ヤマシギ、トラツグミ、エナガといった樹林性の種が生息していました。オオタカやツミは繁殖も確認され、猛禽類が子育てできる豊かな樹林があることが分かりました。



ツミ



ヤマシギ



トラツグミ

水鳥や草地性の種が少ない

水鳥では、カモ類が区内の池や河川で確認されましたが、サギ類やクイナ類は少なく、シギ・チドリ類は渡りの途中にごく少数が立ち寄るだけでした。オオヨシキリやホオジロなどの草地を好む種もほとんど見られず、以前は区内に生息していたヒバリは全く見つかりませんでした。



コサギ



コチドリ



オオバン

コラム オオハクチョウが現れました

調査期間にあたる平成21年1月9～10日、都立石神井公園の石神井池に家族と考えられる4羽のオオハクチョウが飛来しました。区内では非常に珍しい記録で、多くの方が観察に訪れました。





ほ乳類

確認種 5 種 重要種 1 種 外来種 1 種

確認種数

4目5科5種を確認しました。ネズミ類は、種の特定はできませんでしたが、クマネズミかドブネズミと考えられます。

目名	科名	種名	重要種	外来種
モグラ	モグラ	アズマモグラ	○	
コウモリ	ヒナコウモリ	アブラコウモリ		
ネズミ	ネズミ	ネズミ類		
ネコ	イヌ	タヌキ		
	ジャコウネコ	ハクビシン		○

重要種

東京都のレッドリストで「留意種」であるアズマモグラを確認しました。確認は「モグラ塚」と呼ばれる穴を掘ったあとの土の持ち上がりで行い、都立光が丘公園や都立石神井公園など、区内6ヶ所で確認しました。



アズマモグラの塚 (都*)

外来種

ハクビシンを3ヶ所で確認しました。調査員が足跡を確認したほか、ヒアリングでも生息を確認しました。



ハクビシンの足跡



は虫類

確認種 13 種 外来種 4 種 (特定外来生物 なし)
重要種 8 種 (要注意外来生物 4 種)

確認種数

2目7科13種を確認しました。このうち、カメ目は8種、トカゲ目は5種でした。

目名	科数	種数	重要種	外来種
カメ	3	8	3	4
トカゲ	4	5	5	

外来種

4種を確認しました。全てカメ類で、いずれも環境省の要注意外来生物に指定されています。このうち、ミシシippアカミミガメは、区内の池や河川に広く生息していました。

このほか、人為的に放された種として、ミナミイシガメも都立石神井公園で確認されました。



ワニガメ



ミシシippアカミミガメ

重要種

8種を確認し、全てが東京都のレッドリストの記載種でした。外来種を除くと、ほとんどの種が重要種でした。



クサガメ (右) (都 DD)
ニホンイシガメ (左) (都 CR+EN)



ニホントカゲ (都 CR+EN)



ヒバカリ (都 VU)



アオダイショウ (都 NT)



両生類

確認種 7種
重要種 6種

外来種 1種 (特定外来生物 1種)
(要注意外来生物 なし)

確認種数

1目4科7種を確認しました。都立光が丘公園や都立石神井公園などの池やその周辺の樹林などに生息していました。

重要種

6種を確認し、全てが東京都のレッドリスト記載種でした。このうち、区内で繁殖を確認したのは、アズマヒキガエル、ニホンアカガエルの2種で、卵塊や幼生(オタマジャクシ)を観察することができました。



アズマヒキガエル
(都 NT)



ニホンアマガエル
(都 EN)



ニホンアカガエルの卵塊
(都 EN)

目名	科名	種数	重要種	外来種
カエル	ヒキガエル	1	1	
	アマガエル	1	1	
	アカガエル	4	3	1
	アオガエル	1	1	

外来種

環境省の特定外来生物に指定されているウシガエルを、都立光が丘公園や都立石神井公園の池で確認しました。ヤマアカガエルやトウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエルは在来種ですが、人為的に放された個体だと考えられます。



ウシガエル



ヤマアカガエル



陸産貝類

確認種 25種 重要種 2種 外来種 5種

確認種数

2目10科25種を確認しましたが、この他に種の特定ができなかった種もいます。

重要種

東京都のレッドリスト記載種である、コオオベソマイマイ類の一種とスナガイが確認されました。両種ともに、区立武蔵関公園で確認したほか、スナガイは都立大泉中央公園でも確認しました。



コオオベソマイマイ類の一種
(都 NT)



スナガイ
(都*)

目名	科数	種数	重要種	外来種
原始紐舌	1	1		5
柄眼	9	24	2	

外来種

5種を確認しました。コハクガイやチャコウラナメクジは最も多く、8ヶ所で確認しました。この他に、都立光が丘公園で確認されたアズキガイは、国内の他の地域から持ち込まれた種だと考えられます。



コハクガイ



チャコウラナメクジ

練馬区の様々な環境

環境類型とそこに生息・生育する動植物の特徴を把握するため、動植物の調査結果をもとに、環境類型ごとにまとめました。特に樹林については、管理

作業頻度、林内の明るさ、人の利用頻度、林床の植被率を考慮しました。練馬区の典型的な環境と動植物を以下に紹介します。

大規模樹林（保護区型）

多くの場所で、保護区域として立ち入りが制限されています。そのため、林床は踏圧が低く、植物が多く見られます。管理作業の頻度により、林床が明るい樹林から比較的暗い樹林まであります。全体的に動植物相が豊かです。



モデルとした場所：都立光が丘公園、都立石神井公園、稲荷山・清水山憩いの森、豊島園



キンラン



オオタカ



ヤマシギ



ハヤシノウマオイ



イチモンジチョウ



タヌキ

	種名
植物	イヌシデ、クヌギ、アズマネザサ、キンラン
鳥類	オオタカ、ツミ、ヤマシギ、アオゲラ
昆虫類	ハヤシノウマオイ、ヤマトタムシ、ミズイロオナガシジミ、イチモンジチョウ
その他	サガオニグモ、タヌキ、アオダイショウ

大規模樹林（都市公園型）

植栽由来の樹木が多い樹林です。管理作業の頻度は高く、林床が明るい樹林です。人の利用が優先されるために、林床は踏圧が高く、あまり植物が見られません。動植物相は大規模樹林（保護区型）よりも貧弱になっています。



モデルとした場所：都立城北中央公園、都立大泉中央公園、区立武蔵関公園、武蔵学園



オオバコ



ツミ



エナガ



コゲラ



ウスグモスズ



ゴマダラチョウ

	種名
植物	ケヤキ、クスノキ、ヤブツバキ、オオバコ
鳥類	ツミ、アオゲラ、コゲラ、エナガ
昆虫類	ウスグモスズ、ゴマダラチョウ
その他	ヨダンハエトリ、スナガイ

小規模落葉広葉樹林

高木層にクヌギ、コナラ、イヌシデなどが優占しています。管理作業の頻度は比較的高く、林床が明るい樹林です。林床の踏圧は比較的低く、アズマネザサなどが生育しています。



モデルとした場所：どんぐり山憩いの森、区立高稲荷公園、東京カトリック神学院、八の釜憩いの森



クヌギ



コゲラ



キビタキ



コムスジ



カブトムシ



カナブン

	種名
植物	イヌシデ、クヌギ、アオキ、ケチヂミザサ、シュロ
鳥類	コゲラ、シロハラ、キビタキ
昆虫類	カナブン、カブトムシ、コムスジ、ヒメジャノメ
その他	ジグモ、ギンメッキゴミグモ、ニホンカナヘビ

社寺林

高木層はヒノキ、シラカシ等の常緑樹であるため、林床は暗く、被度は低くなっています。シュロなどの鳥類が運んだ種子由来の植物が林床に生育しています。



モデルとした場所：八幡神社、氷川神社、天祖若宮八幡宮、土支田八幡宮、廣徳寺



ウラシマソウ



シロハラ



ヒグラシ



ヒメジャノメ



ニホントカゲ



ギンメッキゴミグモ

	種名
植物	ヒノキ、シラカシ、ヒサカキ、シュロ、ウラシマソウ
鳥類	ヒヨドリ、シロハラ
昆虫類	ヒグラシ、クロアゲハ、ヒメジャノメ
その他	ジョロウグモ、ギンメッキゴミグモ、ニホントカゲ

屋敷林

敷地境界にケヤキが植えられており、ケヤキの大木も多いです。高木～亜高木層にシラカシ、亜高木～低木層にヒサカキも生育しています。木陰のある樹林地と玄関先などの明るい開けた環境の両方があります。



シラカシ



トラツグミ



アオバズク



ヤマトタマムシ



オニグモ



ナミコギセル

	種名
植物	シラカシ、ケヤキ、ヒサカキ、アオキ、ナガバジャノヒゲ
鳥類	アオバズク、トラツグミ、オオルリ、ワカケホンセイインコ
昆虫類	ヒグラシ、ヤマトタマムシ、クロアゲハ、ヒメジャノメ
その他	オニグモ、ニホントカゲ、ナミコギセル

草地

低茎から高茎の草地です。草刈の頻度により、草丈が異なります。中茎から高茎の草地は区内では少なく、昆虫類をはじめ生きものの重要な生息地となっています。



モデルとした場所：都立光が丘公園昆虫原っぱ、都立城北中央公園、小作原広場、井頭こぶし憩いの森、区立びくに公園



アキノエノコログサ



モズ



ベニシジミ



クビキリギス



ナガコガネグモ



アブラコウモリ

	種名
植物	カモジグサ、カゼクサ、ススキ、アキノエノコログサ
鳥類	ハクセキレイ、モズ、カワラヒワ、ムクドリ
昆虫類	クビキリギス、ツコムシ、モンキチョウ、ベニシジミ
その他	ナガコガネグモ、アブラコウモリ、ニホンカナヘビ

農地

植物は農作物が中心で自生種は少ないですが、植栽された作物や草花などの蜜や花粉を求めて昆虫類が飛来します。日当たりのよい開けた環境と樹林の両方を利用する生きものなどが集まります。



モデルとした場所：高松市民農園、石泉愛らんど、O氏畑



スベリヒコ



ムクドリ



モズ



モンシロチョウ



トウキョウヒメ
ハンミョウ



ウツキコモリグモ

	種名
植物	スベリヒコ、コニシキソウ、ハキダメギク
鳥類	ハクセキレイ、モズ、ツグミ、ムクドリ
昆虫類	トウキョウヒメハンミョウ、キアゲハ、モンシロチョウ
その他	ウツキコモリグモ、ウスカワマイマイ

市街地

市街化が進んだ地域、緑化が進められている地域、緑が多く残る地域などがあります。市街地に適した生きものだけでなく、比較的緑が多いためにそれらの緑地を利用する生きものも見られました。



モデルとした場所：田柄川緑道ルート、城南住宅ルート、線馬駅周辺ルート、立野町ルート、土支田・谷原ルート



カタバミ



ハシブトガラス



ハクセキレイ



ヤマトシジミ



アオマツムシ



コクサグモ

	種名
植物	サザンカ、カナメモチ、カタバミ、アキノエノコログサ
鳥類	ドバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ハシブトガラス
昆虫類	アオマツムシ、ナミアゲハ、ヤマトシジミ
その他	アブラコウモリ、ニホンヒメグモ、コクサグモ

水辺（止水域）

林縁から草地、湿地、浅い水域から深い水域までの多様な環境です。異なる環境が連続的に変化する場所は、様々な生きものが利用しています。



モデルとした場所：都立石神井公園石神井池・三宝寺池、区立武蔵関公園富士見池、都立光が丘公園 BS



ヨシ

カイツブリ

カワセミ



ギンヤンマ

ヒバカリ

ウシガエル

種名	
植物	ハンノキ、スイレン、ヨシ、ミクリ、ヒメガマ、カササゲ
鳥類	カイツブリ、サギ類、カモ類、カワセミ
昆虫類	ギンヤンマ、ウチワヤンマ、チョウトンボ、コムラサキ
その他	クサガメ、ヒバカリ、ウシガエル

水辺（流水域）

河川の淵から瀬、抽水植物帯、湿生植物帯、草地と、狭いながらも異なる環境が連続的に存在しています。昆虫類や鳥類など様々な生きものが利用しています。



モデルとした場所：石神井川流域、白子川流域



ナガエミクリ

コサギ

キセキレイ



ハグロトンボ

アサギマダラ

ミシシippiaカミミガメ

種名	
植物	オオイヌタデ、カワチシャ、オオアレチノギク、ナガエミクリ
鳥類	サギ類、カモ類、ツバメ類、セキレイ類
昆虫類	ハグロトンボ、アサギマダラ
その他	アブラコウモリ、ミシシippiaカミミガメ

身近な生きものと出会う「区立稲荷山図書館」

区立稲荷山図書館は、清水山憩いの森と稲荷山憩いの森にはさまれるように建っています。館内には一般の図書の他に、昆虫コーナーが設けられ、昆虫専門の図鑑や書籍のほか、学会誌などの文献も收藏されています。その資料の数は、図書が約 5,700 冊、ビデオが約 100 巻、標本が約 3,200 あります。夏休みには、小中学生を対象として昆虫採集や観察を行う「昆虫教室」なども行われます。また、敷地内には、チョウが好む樹木などを植えた「バタフライガーデン」やコウモリのすみかとなる「コウモリハウス」も作られ、昆虫観察もできるようになっています。



「コウモリハウス」づくり

所在地：練馬区大泉町 1-3-18

電話：03-3921-4641



ね



りまの生きものさがし



ねりまの生きものさがしとは

区内に生息している身近な生きものたちを、区民の方々と協働でさがした事業で、平成22年3月から平成23年2月に実施しました。環境の指標となる生きものをさがすことで、その周りの自然環境にも関心を持つきっかけになればと企画しました。この結果は、今後、人間と生きものたちが共存できるまちづくりへと活かしたいと考えています。



調査対象種

※タヌキとハクビシンは通年で調査しました。



「練馬区の木」であるコブシをはじめ、春に開花する植物や子育てする鳥類、声を聴くことのできる生きものたちを探しました。

夏は、昆虫類を中心に、は虫類や陸産貝類も加えて調査をしました。また、草木が生い茂り、生きものたちを見つけにくいいため、声で探すことのできる種も対象にしました。



コブシ



アゲハチョウ類の幼虫



クビキリギス



タムムシ



ヒグラシ



ヤモリ



ツバメの巣



カルガモの親子

春

10種

夏

11種



アマガエル



カタツムリ類

冬

10種

秋

9種



ルリタテハ



オオミノガ



クヌギのどんぐり



ショウリョウバッタ



カワセミ



オナガ



アズマゴウラ



アサギマダラ



ナガコガネグモ



ジグモの巣

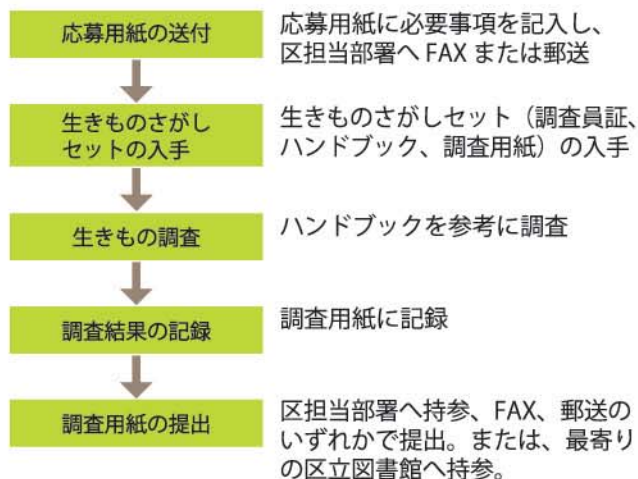
冬は木々の葉が落ちて、野鳥の観察がしやすくなるため、鳥類を中心に対象種を選びました。また、厳しい寒さの中で、越冬する昆虫類も対象種としました。

秋によく見られる昆虫類やクモ類を中心に選びました。練馬区では少なくなっている草地に生息する生きものや、雑木林の象徴であるクヌギも対象としました。

※「ねりまの生きものさがし」では、以下の生物名の略称を用いました。

ヤモリ=ニホンヤモリ トカゲ=ニホントカゲ アマガエル=ニホンアマガエル

アンケート調査の流れ



調査用紙回収箱



応募用紙

参加状況

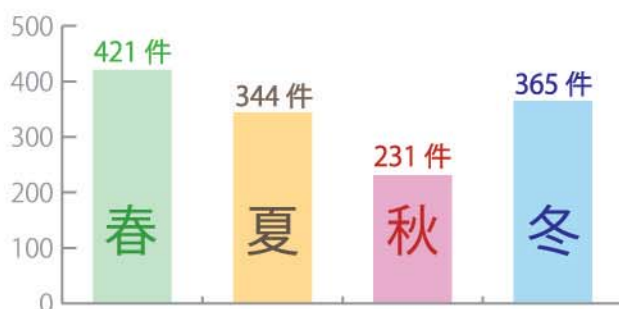
一般区民向け調査の参加状況

参加者	チーム数	313 チーム
	人数	959 名
報告件数		2,014 件

※区内に在住・在勤・在学している方を対象としました。
 ※報告件数には、対象種以外のものも含んでいます。

小学校向け調査の参加校 (13 校)

豊玉第二小学校、中村小学校、中村西小学校、早宮小学校、春日小学校、光が丘春の風小学校、石神井東小学校、光和小学校、谷原小学校、関町小学校、大泉第二小学校、大泉学園緑小学校、南田中小学校



各期の報告件数 (一般区民向け調査・対象種のみ)

ハンドブック・ニュースレター

調査員には調査員証としてバッジを配布しました。調査対象の生きものを解説したハンドブック、調査の途中経過をお知らせするニュースレターも配布しました。



調査員証



ハンドブック



ニュースレター

写真展・自然観察会

ねりまの生きものさがしの実施とあわせて、季節ごとに写真展と自然観察会を行いました。写真展は、練馬区役所アトリウムと都立光が丘公園バードサンクチュアリで、自然観察会は都立光が丘公園や都立石神井公園を中心に行いました。



北国から渡ってくる野鳥の観察会 (都立光が丘公園)



ねりまの生きもの写真展 (練馬区役所アトリウム)



ねりまの生きものさがし

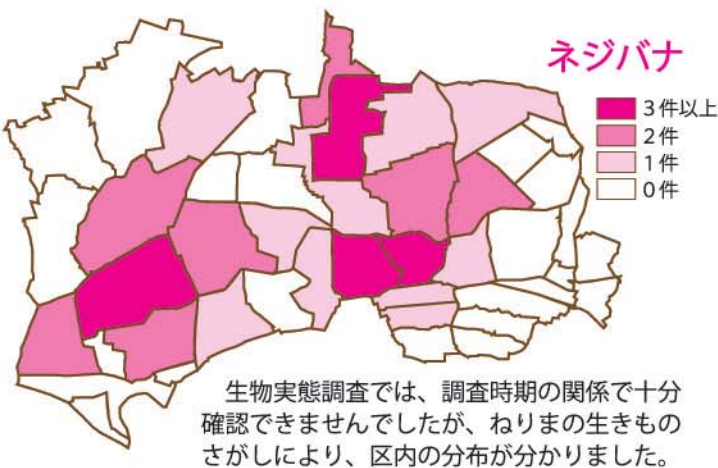
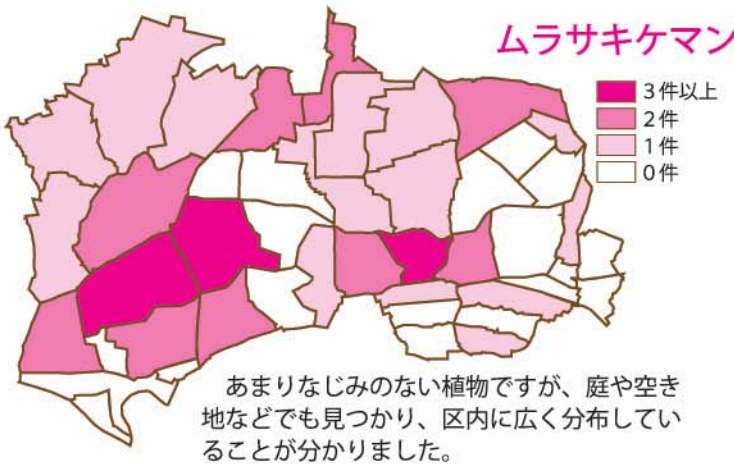
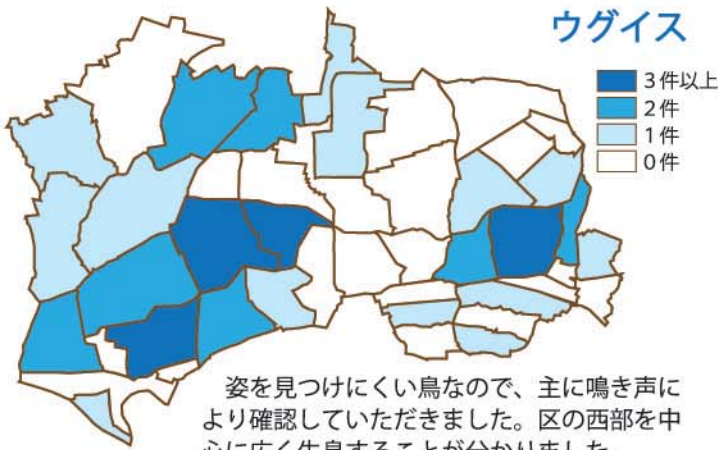


春の結果

春期は421件の報告がありました。「練馬区の木」でもあるコブシが110件と最も多く、次いでウグイスが81件、ムラサキケマンが75件でした。区内では非常に珍しいフクロウの仲間であるアオバズクの情報も7件寄せられました。

春の報告状況

順位	対象	報告件数	町数
1	コブシ	110	26
2	ウグイス	81	24
3	ムラサキケマン	75	26
4	ネジバナ	61	21
5	ヒキガエルの卵・幼生	22	10
6	ツバメの巣	18	10
7	カルガモの親子	17	8
	アゲハチョウ類の幼虫	17	9
9	クビキリギス	13	6
10	アオバズク	7	2
合計		421	



調査員が撮影した写真



コブシ



ムラサキケマンとツマキチョウ



ツバメのひなと巣

～春の調査結果から～

ヒキガエルの卵・幼生（オタマジャクシ）は、10町から22件報告が寄せられました。一方、生物実態調査では3ヶ所のみ確認でした。これは、個人宅の池には立ち入りできないことや、調査労力が限られるためですが、区民の方の情報が生物実態調査を補足することができました。



ね



りまの生きものさがし



夏の結果

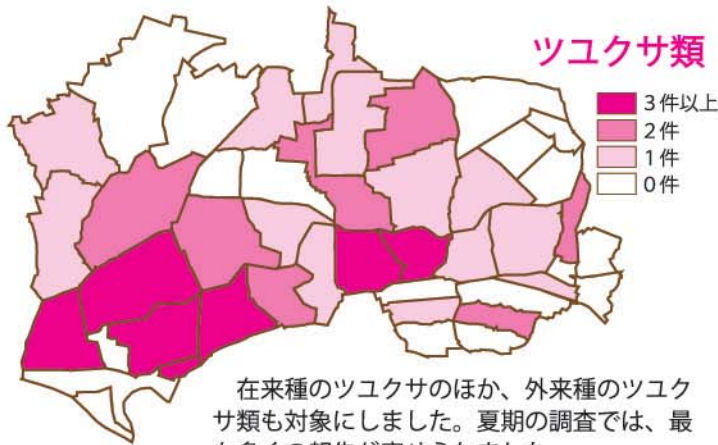
344件の報告が集まりました。ツククサ類が最も多く112件、次いでトカゲが40件、ヒグラシとアブラコウモリが37件、ヤモリが36件でした。また、子どもに人気のカブトムシは24件、外観がキラキラしているタマムシは7件の報告が寄せられました。

夏の報告状況

順位	対象	報告件数	町数
1	ツククサ類	112	30
2	トカゲ	40	15
3	ヒグラシ	37	13
	アブラコウモリ	37	19
5	ヤモリ	36	22
6	カタツムリ類	25	15
7	カブトムシ	24	10
8	ベニシジミ	22	10
9	タマムシ	7	5
10	アマガエル	4	1
合計		344	

※アオバズクは春の結果 (p.20) に示しました。

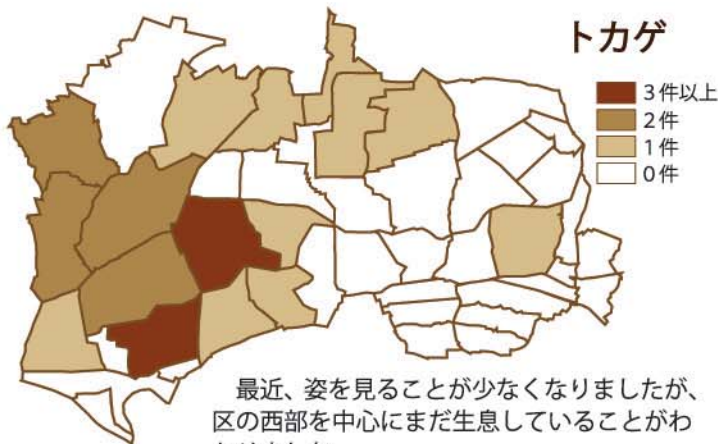
調査員が撮影した写真



在来種のツククサのほか、外来種のツククサ類も対象にしました。夏期の調査では、最も多くの報告が寄せられました。



ツククサ



最近、姿を見ることが少なくなりましたが、区の西部を中心にまだ生息していることがわかりました。



トカゲ



トカゲと比べると、報告件数は少ないものの、区全体に生息していることがわかりました。



ベニシジミ

～夏の調査結果から～

トカゲの報告が2位となったのは、意外な結果でした。トカゲは崖地のくぼみなどに巣をつくる習性があり、環境の変化に弱いので、あまり報告されないと思われたからです。よく似たカナヘビとの混同も心配されましたが、写真の添付や特徴を記載してくださる調査員の方も多く、貴重な分布情報となりました。



ね



りまの生きものさがし

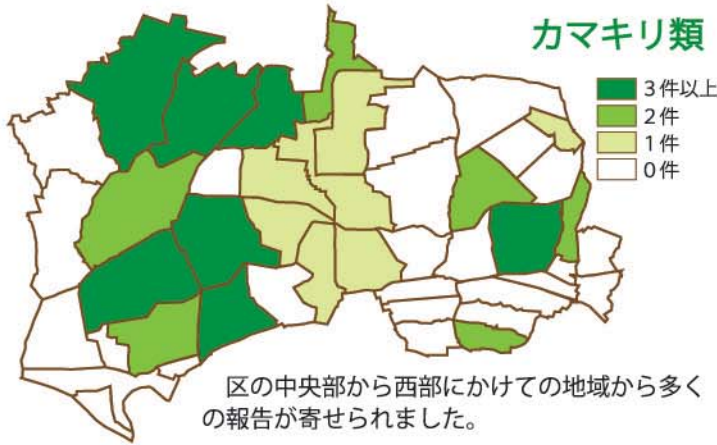


秋の結果

231件の報告が寄せられました。カマキリ類が最も多く65件、次いでキチョウが61件、シヨウリョウバッタとジョロウグモが24件で並びました。件数は少ないものの、渡りをするチョウ「アサギマダラ」の報告も2件ありました。

秋の報告状況

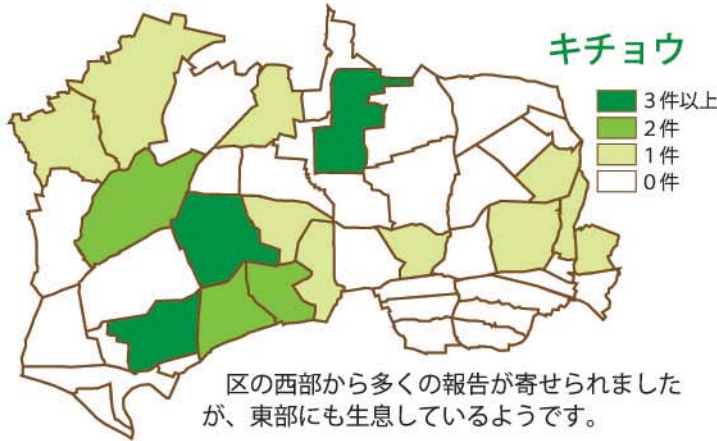
順位	対象	報告件数	町数
1	カマキリ類	65	23
2	キチョウ	61	18
3	シヨウリョウバッタ	24	12
	ジョロウグモ	24	10
5	クヌギ	20	8
6	モズ	14	8
	ジグモの巣	14	10
8	ナガコガネグモ	7	2
9	アサギマダラ	2	1
合計		231	



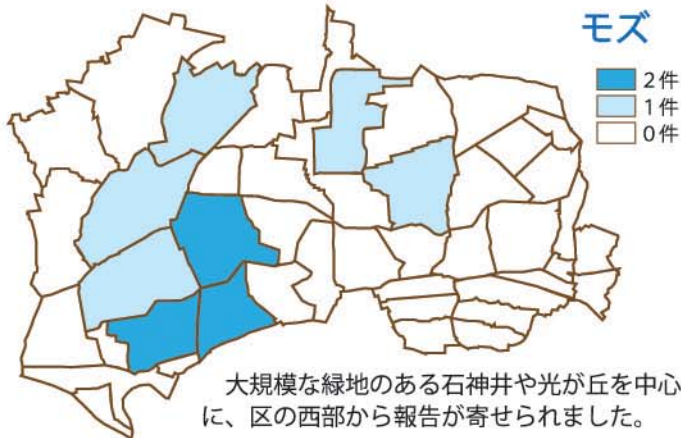
調査員が撮影した写真



キチョウ



モズ



ジグモの巣

～秋の調査結果から～

1位になったのはカマキリ類でした。形が特徴的で分かりやすいことや、オオカマキリやハラビロカマキリなど複数の種を対象としたことも、影響したかと思われます。なお、カマキリ類は、他の昆虫などを食べる捕食者であり、報告が多いことは練馬の自然が豊かであるバロメーターになりそうです。



ね



りまの生きものさがし



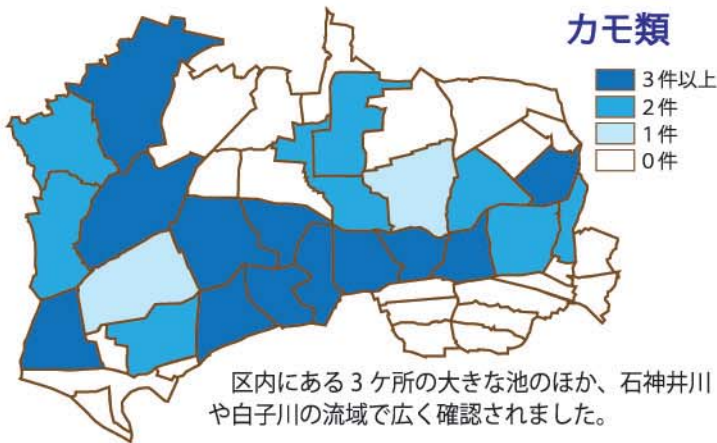
冬の 結果

365件の報告が寄せられました。カモ類が最も多く9種138件の報告が寄せられました。次いでメジロが83件、オナガが44件となり、冬期は鳥類が中心となりました。その他、小型のキツツキであるコゲラや「水辺の宝石」とも呼ばれるカワセミの報告も多数ありました。

冬の報告状況

順位	対象	報告件数	町数
1	カモ類	138	23
2	メジロ	83	32
3	オナガ	44	18
4	ジョウビタキ	29	17
5	コゲラ	26	14
6	カワセミ	22	6
7	アズマモグラ	8	4
	ルリタテハ	8	5
9	テントウムシ類	4	3
10	オオミノガ	3	2
合計		365	

カモ類

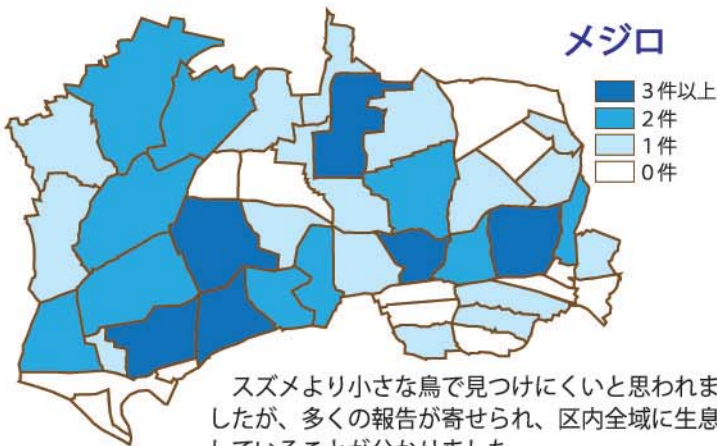


調査員が撮影した写真



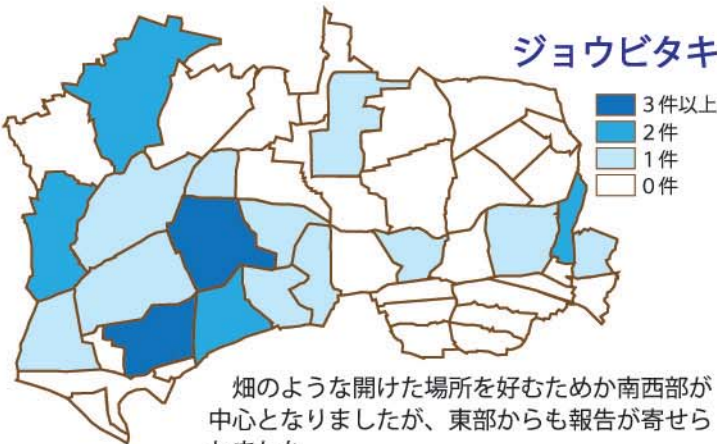
カモ類(ミコアイサ)

メジロ



テントウムシ類(ナナホシテントウ)

ジョウビタキ



アズマモグラの塚

～冬の調査結果から～

1位になったカモ類ですが、この報告の中には、オカヨシガモ、ヒドリガモ、ミコアイサといった区内ではあまり記録されない種も含まれていました。これらの種は、移動の途中で一時的に立ち寄る場合が多く、専門家による生物実態調査だけでは、なかなか確認できない種です。また、調査員の方の「識別眼」が高かったことも貴重な記録に繋がりました。

練馬区の自然観察ポイント

いがしら 大泉井頭公園と白子川沿い

白子川の源流部にあたります。水面近くに降りられる木道があり、ハグロトンボをはじめ水辺の生きものが観察しやすくなっています。貴重なホトケドジョウなどの魚類も生息し、それらの小魚を狙ってカワセミやコサギなどの水鳥も現れます。秋には渡り途中のアサギマダラがやってきます（8ページのコラム参照）。

【交通】

西武池袋線「大泉学園」駅または「保谷」駅下車 徒歩15分

【所在地】

練馬区東大泉 7-34

【問い合わせ先】

練馬区西部公園管理事務所
電話 03-3867-1189



※駐車場はありません。



大泉井頭公園（白子川源流部付近）



カワセミ



ハグロトンボ

清水山・稲荷山憩いの森

春に咲くカタクリの大群落が見事ですが、そのほかにもよく探すとイカリソウやヒトリシズカなどの早春の植物たちが咲いています。また、清水山憩いの森の湧水では区内では珍しいシマアメンボも観察できます。近くの稲荷山図書館は、昆虫関係の資料が揃っているほか、チョウ類などを誘致する取り組みを行っています（17ページのコラム参照）。

【交通】

西武池袋線「石神井公園」駅下車 西武バス・国際興業バス「土支田二丁目」下車 徒歩3分

【所在地】

練馬区大泉町 1-6（清水山憩いの森）

【問い合わせ先】

練馬区みどり推進課 電話 03-5984-1683



※駐車場はありません。



清水山憩いの森



カタクリ

都立 石神井公園 三宝寺池

公園全体で自然観察ができますが、特に三宝寺池の周辺がおすすめです。

夏の石神井城址の周辺では、林からはヒグラシの大合唱が聞こえ、池の周りでは様々なトンボ類も観察できます。冬の池にはカモ類をはじめ多くの水鳥たちが集まり、それを狙うオオタカがやってくることも。国の天然記念物に指定されている沼沢植物群落では、カキツバタやコウホネなどが観察できます。



三宝寺池



カキツバタ



水辺観察園

【交通】

西武池袋線「石神井公園」駅下車 徒歩7分

【問い合わせ先・所在地】

石神井公園サービスセンター

〒177-0045 練馬区石神井台 1-26-1

電話 03-3996-3950

都立 光が丘公園

大きな樹林や大木のある公園ですが、区内では貴重な草はらがあることも特徴です。サービスセンターの西側にある「昆虫原っぱ」では、バッタ類をはじめとした様々な昆虫類が観察でき、それを狙うモズなどの鳥たちもやってきます。また、夏から秋の夜には「鳴く虫」の声も楽しめます。解説員もいるバードサンクチュアリは、土・日・祝祭日に開園します。



昆虫原っぱ



バードサンクチュアリ

【交通】

都営地下鉄大江戸線「光が丘」駅下車 徒歩8分

【問い合わせ先・所在地】

光が丘公園サービスセンター

〒179-0072 練馬区光が丘 4-1-1

電話 03-3977-7638

自然観察の方法

熱中症予防のために帽子をかぶろう！

野鳥観察には、8倍程度の双眼鏡がおすすめ

生きものに会いに出かけよう！

この冊子で紹介しているように、区内にはまだまだ多様な動植物が暮らしています。ただし、彼らも野生の生きもののため、出会ったり、観察したりするには、ちょっとした準備や道具、コツなどが必要です。このページを参考にして、身近な生きものたちに会いに出かけてみましょう。

虫に刺されないために、肌が出ないシャツやズボンをはこう！

デジカメがあると、あとで図鑑と照らし合わせることができて便利！

生きものに触るときは、優しい気持ちで。



両手が空くように、肩掛けバックのほか、ウェストポーチも便利。メモ帳もぜひ入れておこう！

虫に刺されないために、サンダルはやめ、靴をはこう！

気をつけたい生きものたち

自然観察の途中で、スズメバチやアシナガバチには近づかないようにしましょう。また、ツバキやサザンカにつくチャドクガや、カキやウメなどの果樹につくイラガなどには、触らないようにしましょう。



オオスズメバチ



チャドクガの幼虫

こんな場所に注目してみよう！

開けた場所の空



春から秋、カなどを食べるため、昼間はツバメが、夕方にはコウモリが飛びます。

草むら



春から秋、草むらにはバッタやカマキリなどの昆虫類が観察できます。

木の枝先

木の枝先には野鳥がとまっていることもあります。



実のなる木

赤や紫や黒色の木の実を野鳥が食べることが多いです。



花



チョウ、ハチ、アブ、ハエ、アリなど様々な生きものが吸蜜に来ます。

水辺



水辺には、トンボが産卵に訪れたり、アメンボなどを観察できます。

樹皮や樹名板の裏

ヤモリやテントウムシが越冬していることがあります。



ビルの上を見上げてみよう

自然観察ができるのは、公園や河川だけではありません。ビルが立ち並ぶ街中でも注意をしてみると、意外な生きものに出会えます。例えば、鉄塔やビルの上や周辺には、カラスやハトばかりではなく、チョウゲンボウというハヤブサの仲間がいるかもしれません。ハトくらいの小型の種ですが、練馬駅の周辺でもたびたび確認しました。



練馬区自然環境調査報告書 概要版（平成 24 年 3 月）

編集・発行：練馬区 環境まちづくり事業本部 環境部 みどり推進課

〒176-8501 練馬区豊玉北 6-12-1

電話：03-3993-1111（代表）

※ 自然環境調査の詳しい内容は、練馬区立の図書館などにある
「練馬区自然環境調査報告書」でもご覧いただけます。